



2024年5月
あおぞら保育園
あおぞら第2保育園
あおぞら谷津保育園
あおぞら菅田保育園

ほけんだより

さわやかな季節になりました。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症は減少してきていますが、引き続き手洗い、咳エチケットで予防につとめていきたいですね。お散歩にでかける時は、服や靴のサイズの確認をして、子どもたちが安全に楽しく思いきり体を動かして遊べるようにしましょう。

体に合った服装にしましょう！

衣服が汚れたり、排尿、排便等で、脱いだり着たりする回数も多いので、着脱のしやすいものにしませう。また、しっかりと歩いたり、走ったりできるように、体に合ったものを着せるようにしませう。ズボンのすそが長いものや伸縮性のないものは活動の妨げになってしまいます。

- *服は脱ぎ着しやすいもの、排泄時にまごつかないものにしてください。
- *危険防止のため次のものはさけてください
フード付きの服、首、胴回りや足首にひもがついたもの、
プラスチック・金具のついた髪どめや髪ゴム、シリコンヘアゴム、ピンバッジなど

入園・進級のしおりにも記載があります。確認をお願いします。

元気に遊んでたくさん汗をかきましょう！

肌が気温の変化を感じることで、体温調節機能が働きます。

汗腺の数は成長とともに増加し、2～3歳ごろまでに発汗機能が完成するといわれています。体温調節機能の成熟のためには、発汗機能が完成するまでのこの時期に、適度に汗をかく生活を送る必要があります。できる範囲で、涼しい時間帯に外遊びをするなどしていきたいですね。

汗をかいたら、着替えもします。洋服等保育園のストックを確認してくださいね。

靴は足に合っていますか？

小さくなった靴やブカブカ靴は、足が動かず、脱げたり、転んだりして事故の原因になります。また足に合わない靴を履いていると、思いきって遊べません。

週末には清潔に洗い、足に合っているかどうか点検しましょう。

正しく靴を選ぶ、6つのチェックポイント

つま先に7mm～10mm程度余裕があるのがいい状態。靴のかかとと足のかかとをしっかりと合わせ、靴の中で足が動かないように、マジックテープなどで調節してください。



参考・引用：必見！足育先生が教える「正しい靴の選び方と履き方」



子どもの事故防止

子どもは日々成長発達していて、昨日できなかったことが今日できるようになります。家の中の環境を振り返る機会にできたらいいですね。

子どもの不慮の事故の発生傾向

～こども家庭庁「子どもの不慮の事故の発生傾向と対策等」より～

年齢別に多い死亡事故の割合

令和4年におけるこどもの死亡数は2,584人。このうち、こどもの「不慮の事故」による死亡数は181人で、こどもの死亡数に占める割合は7.0%。

①「窒息」は、0歳で圧倒的に多く発生。

- *ベッド内での不慮の窒息→顔が柔らかい寝具に埋もれる、ベットと壁の隙間に挟まれる、ミルクの吐き戻しによる窒息等
- *ブラインドやカーテンのひもなどによる窒息
- *食事中に食べ物で窒息、
- *誤飲：ボタン電池、磁石、おもちゃなど小さなもの、包装フィルム・シール等

②「交通事故」は、1歳以上で全て1位。

- *チャイルドシート未使用による事故、車内での熱中症、子どもを乗せ自転車で転倒、自転車に乗せた子どもの足が後輪に巻きこまれる、道路上での事故等

③「溺水」は、0～2歳は「浴槽」。3歳、5～9歳、10～14歳は「自然水域」での事故が上位。

- *入浴中・浴槽へ転落し溺れる、バケツや洗面器など少量の水でも溺れる、海や川、プールでの事故

④「転倒・転落」について「建物からの転落」は、2、4歳と10～14歳が多い。

- *階段から転落、段差での転倒、ショッピングカートからの転落、ベランダ、窓や出窓からの転落、遊具（すべり台、ジャングルジム、ブランコなどからの転落）、ペダルなし二輪遊具、キックスケーターでの転倒

引用：こども家庭庁 こどもの事故防止に関する関係府省庁連絡会議 令和6年3月26日 資料1
参考：消費者庁 子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック

事故事例と対策

Safe Kids Japan ホームページより

食べ物による窒息（喉につまる）

対象年齢 1～3歳



【事故事例】
子ども（1歳児）が、ミニトマトを丸ごと口に入れ、喉に詰まらせてしまいました。



【予防法】

丸い食べ物は小さくカット
ミニトマトやブドウなど、丸くてある程度の硬さがあり、外側がツルツルしていて喉の奥にスルッと入りやすい野菜や果物は、1/4以下の大きさにカットしてから与えましょう。
みたらし団子や白玉団子、こんにゃく入りゼリーやホットドッグなども同様です。

歯ブラシによる刺傷

対象年齢 0歳～4歳



【事故事例】
子どもが歯みがきをしながらソファのアーム部分（高さ50cm）に立ってしまったようです。泣き声が聞こえ、慌てて見に行くと、歯ブラシを口にくわえたままフローリングの床にうつ伏せに倒れていました。すぐに刺さっている歯ブラシを抜きました。柄の部分は取れたのですが、先端部分は病院で上咽頭部から摘出されました。



【予防法】

座って歯みがきを習慣化
特に歩行が安定していない1～2歳児は転倒しやすいので、座って歯みがきをするのを習慣化しましょう。歯ブラシは柄の一部が柔らかくなっていて曲がるものや、先端が喉に届かないように持ち手につばがついているものなどを選びましょう。

割りばしや棒のついた飴なども注意したいですね。

☆医師の意見書及び保護者の登園届および、おたよりのバックナンバーは、

yokohama aozora

検索



または

社会福祉法人 あおぞら

検索

